



日韓特別企画展関連イベントの日韓フードフェスタオープニングセレモニー

# 佐賀県立博物館・美術館報

SAGA PREFECTURAL MUSEUM · SAGA PREFECTURAL ARTMUSEUM

14 March 2008

No.140



## 展覧会報告 日韓特別企画展 「吉野ヶ里遺跡と古代韓半島—2000年の時空を越えて—」

平成20年元旦に開幕した日韓特別企画展「吉野ヶ里遺跡と古代韓半島—2000年の時空を越えて—」は20,809人の方に観覧いただき、好評のうちに2月11日無事閉幕した。ここでは同展をご覧頂けなかった方々にもその雰囲気をお伝えできるよう、概要を報告したい。

### 1.はじめに

この展覧会は、平成元年2月吉野ヶ里遺跡が全国に大きくその名を轟かせてからちょうど20年目という節目の年にあたる今年の年頭を飾る事業として、佐賀県教育委員会が韓国国立中央博物館との共催により、実施したものである。基本的には昨年10月16日から12月2日までソウルの韓国国立中央博物館で開催された「吉野ヶ里—日本の古代韓国—」展を地元佐賀において再現した展覧会である。

弥生時代環濠集落としての吉野ヶ里遺跡にスポットをあて、同時代の韓半島の考古資料との比較展示により、その源流・交流の諸相を浮かび上がらせるこことを意図したものである。吉野ヶ里遺跡をはじめとする佐賀県出土の資料約400件、韓国出土の資料約250点が出品されたが、特に韓国内の出土品は、考古学的にも厳選された代表的なものばかりであり、国立中央博物館との共催でなければ実現し得ない、充実した内容となつた。



開会式でのテープカット

### 2. 展示内容

展示構成は以下のとおりである。

#### I 韓半島の農耕文化と日本への伝播

1. 韓半島における稲作の始まりと発展
2. 稲作農耕の伝播と弥生文化の始まり

#### II 吉野ヶ里集落の誕生と発展

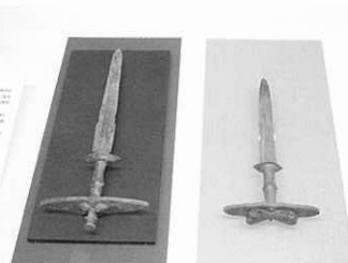
#### III 弥生時代の生活・まつりと韓半島

1. 新技術の伝来
2. 支配者の登場
3. 韩半島人の日常生活
4. 弥生人の日常生活
5. 弥生のまつり
6. 韩半島のまつり

#### IV 韩半島出土の倭系遺物と日韓文化交流

I-1では日本列島に稲作が伝来するまでの韓国の初期稲作関連遺跡として、炭化米が出土した桜洞遺跡や大坪里遺跡・松菊里遺跡など青銅器時代の代表的遺跡の前～中期無文土器や磨製石器類が並ぶ。

I-2では韓半島の磨製石器類や丹塗磨研土器と日本最古の水田稲作遺跡として評価されている唐津市菜畑遺跡の磨製石器類・韓半島特有の支石墓が群集する佐賀市久保泉丸山遺跡の丹塗磨研土器類が比較展示され、その類似度は多くの観覧者に水田稲作文化の伝播（「第1の波」・紀元前6～5世紀）が直接には韓半島南部からのものであったことを実感させていた。



日韓有柄式細形銅剣の比較展示

IIでは吉野ヶ里遺跡に環濠集落が成立した弥生時代前期の土器・磨製石器類が並び、韓半島青銅器文化の模倣を脱し、次第に弥生文化の独自性が芽生える様子を見ることができる。

III-1では「第2の波」とも言うべき紀元前2世紀の半島人の大量渡来と新技術の播籠地が佐賀平野に他ならないことを牛角把手付壺や粘土帶土器に代表される後期無文土器や初期青銅器の鋳型、あるいはガラス管玉の比較展示で提示する。III-2では有柄銅劍や細形銅劍・多錐細文鏡などの比較展示が注目を集めた。農耕社会の形成に伴って出現した首長層の最初の威信財が韓半島系の青銅器であったことがよくわかる。また韓国茶戸里遺跡1号木棺墓の青雲文鏡や銅環・筆・刀子などは、紀元前1世紀における「第3の波」、すなわち楽浪ほか4郡の設置に伴う中国前漢文化・文字文化の波及を如実に示すものとして、日韓の中国鏡比較展示とともに特に注目を集めた。

III-3・4では韓国新昌洞遺跡の木器類が今回まとまって公開された意義は大きい。日韓の本製農工具の類似にはあらためて感心した。また小城市土生遺跡で初めてその全体が出土したタビ（踏鋤）も注目を集めた展示品のひとつであった。韓国の農耕文青銅器に描かれた韓半島独特の農具が土生遺跡で出土したことは「渡来人のムラ」と言われるこの遺跡の名前をさらに多くの人に印象付けたものと思われる。

III-5・6では農耕社会のまつりにおいて鳥形木製品や各種の雛形土製品類が日韓に共通のアイテムであることが看取でき、特に発達した武器形青銅器やその破砕行為、またまつり専用の脚の長い高杯などにも

共通するものを認めることができる。

最後のIVでは韓国内における発掘調査の進展により近年注目を集めている韓半島出土の後系遺物を展示した。当然のことながら交流は一方通行ではなく、列島からも半島へ多くの人々が渡ったことが弥生系土器の韓半島南岸地帯での出土からわかる。また巴形銅器など古墳時代前期の威信財はヤマト政權が半島に軍事進出していく次の時代への橋渡しとして展示の最後を締めくくるに相応しいものであった。

以上の本体展示の後には国営吉野ヶ里歴史公園事務所による同公園の紹介ブースが設けられ、わかりやすい映像や模型・韓国遺跡の地図・解説などが本体展示の内容を補完するに大変役立っていた。観覧者にも大変好評であった。

#### おわりに

今回の展示にあたっては日韓の出土品をそれぞれ色の異なる厚紙の上に展示したり、名前札に国旗を付したりして一見して比較展示の意図が伝わるような配慮もしたが、「説明が少ない」・「ぶりがながふっていない」などのご指摘も受けた。今後に生かすべき点である。会期中には関連したテーマでの国際シンポジウムや勾玉作りなどの体験イベント・フードフェスティバルなども開催され、本展が入場無料であったことと併せ、多くの方にご観覧いただいたことは関係者のひとりとして感謝に耐えないところである。このような機会を通じて日韓の歴史認識が深まり、交流がさらに促進されることを期待してやまない。

(学芸課 主幹 蒲原宏行)



好評を博したギャラリートーク



1万人目の観覧者との記念撮影

## 展覧会報告 「人間国宝 古賀フミ 佐賀錦作品展」

古賀フミ（本名 西山フミ）さんは昭和2年2月3日、佐賀県佐賀市生まれ。幼少の頃から曾祖母と母の指導を受け、佐賀錦の伝統的な制作技法を習得してその修練を重ねられた。そして、平成6年6月27日、重要無形文化財「佐賀錦」の保持者に認定された。

平成19年10月25日から11月28日までの22日間、「人間国宝 古賀フミ 佐賀錦作品展」が開催され、人間国宝・古賀フミさんの魅力あふれる佐賀錦の代表作品約70点が、はじめて佐賀で紹介された。

開幕を前に、24日16時から古賀フミさんご本人をお迎えして、展覧会関係者たち約150人が出席し、開場式がおこなわれた。（写真1）



1 開場式・テープカット

式典では古川康佐佐賀県知事や中尾清一郎佐賀新聞社社長らが「念願の展覧会、一人でも多くの人が美を感じてほしい」とあいさつした。

古賀さんは「何とか手芸の城から脱して、もっと見られるものにしようと努めてきた」と振り返り、初の里帰り展にお礼を述べられた。（写真2）

テープカット後の自身による作品解説では、「華やかで、虚飾のない美しさの作品をつくりたい」と意気込みを語ったほか、「井の中の蛙ではいけない」「名品、本物に学ぶことが大事」と工芸の心を伝えられ、聞き入る参加者の食い入るような目が印象的でした。（写真3）

### |ペット株式会社



2 開場式・あいさつ



3 開場式・自作品解説

翌25日の初日には、古賀フミさんによる作品解説が行われ、多くの佐賀錦関係者をはじめ、牛津高校の「佐賀錦部」の部員17人を代表して4人が作品を携えて会場を訪れた（写真4）。古賀さんは「作品にする場合、どの辺りに文様を置くか、最初から考えて」「糸を染めるところから挑戦すると楽しみが増す」そして、「志を高く持って、辛抱強く織り続けるように」といねいにアドバイスされた。

あこがれの人間国宝から助言を受けた部員らは「私たちも美しい作品を作れるようになりたい」「作品に

愛情を込めておられることがよくわかつた」「難しいはなしもあったけど、人間国宝としての重みが伝わってきた」と感激していた。



4 佐賀錦部の高校生にアドバイス

展覧会には多くの人が訪れたが、来館者の感想をいくつか紹介すると、

「落ち着いた表情なのに華やか。従来の佐賀錦のイメージを超えていると感じた」

「とても素晴らしかった。今もその感動の余韻が残っている」

「緻密で繊細いろいろな佐賀錦の模様を、ゆっくりと思う存分に堪能することができた」

「作品の醸し出す雰囲気、品のある織り目の光沢、フミさんのお人柄を表すような穏やかで優しい色合いの美しさは、静かに、忍耐強く織られており、ずつりとした感動が伝わってきた」

「五百円のとても安い観覧料でこれだけ素晴らしい佐賀の伝統文化に触れることができ、感謝している。またいつか、フミさんの作品展開催の機会があるよう願う」

「今までもっていた佐賀錦のイメージを超えた作品群で感動した」

「技の緻密さは言うに及ばず、デザインの斬新さに驚いた。気が遠くなりそうな作品で本物を伝え残す価値を知った思いがした」

「素晴らしい作品ばかりでセンスの良さ、芯の強さ

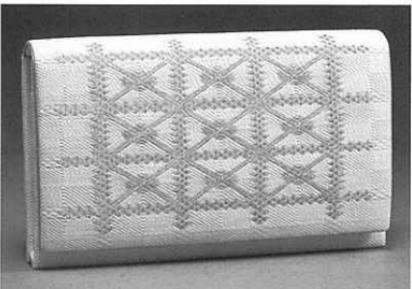
を感じた」

「古賀さんにはお体を大切に、いつまでも美しい作品を織り続けていただきたい」などの賞賛の声が数多く寄せられた。

来館者総数は当初の予想を大きく上回り、11,638人（最終日は1,415人）となった。また、そのうち女性が80%を超えたこと、そしてリピーターが多かったことが注目される。また、展覧会図録（2,000円）も展覧会としては初めて会期中に完売した。

（学芸課 課長 吉永陽三）

写真1、2、3、4提供：佐賀新聞社



佐賀錦ハンドバッグ「花の扇」 平成16年



佐賀錦菱擗籠目文雅袋「花筐（はながたみ）」  
昭和59年

## 平成19年度 博物館・美術館セミナーを開催しました。

博物館・美術館セミナーは、よりいっそう博物館・美術館に親しんでいただくため、各分野の学芸員がそれぞれ選定したテーマについてわかりやすく解説する講座で、講座によっては実際に作品や資料を間近に見たり、館外に出て館外資料の見学もします。今年度は10講座行いました。実施内容は表1のとおりです。

表1

	内 容	開催日
1	肥前国産物図考の世界	6/15
2	絵を書く藩主—佐賀藩3代鍋島綱茂—	7/18,19
3	鉛筆デッサン教室	8/28～8/31
4	「大応國師と崇福寺」展見学	10/3
5	肥前路古墳巡り	10/23
6	日本の陶磁—匠の技と心	10/30～11/1
7	シチメンソウと有明海の生物	11/9
8	肥前の肖像画	11/15
9	日韓古代文化交流「吉野ヶ里展」を読み解く	1/30
10	佐賀城公園の野鳥観察会	2/16

1回目の「肥前国産物図考の世界」は、「肥前国産物図考」第一帖と第二帖に描かれた馬渡島について学習しました。特に、江戸時代の馬渡島では馬の飼育や鹿狩りが行われたり、鷹の雛を捕獲して鷹狩りに利用されていました。館蔵資料を細かく鑑賞しました。



2回目の「絵を書く藩主—佐賀藩3代鍋島綱茂—」は、一日目は画歴、二日目は作例を中心とした内容で、スライドによる解説と館蔵品の鑑賞をまじえながら、講義形式で行いました。



3回目の「鉛筆デッサン教室」は、4日間で人物の鉛筆デッサンを行い、最後にみんなで講評しあうという企画でした。真剣なまなざしでモデルを見てわずかな陰影をデッサンしようと参加者皆さん大変熱心に活動されていました。



4回目の「大応國師と崇福寺」展見学は、バスで福岡市美術館に移動し、「大応國師と崇福寺」展を当館学芸員が解説しながら観覧しました。午後は実際に崇福寺に移動して輪蔵（お経を多数収めた棚で、これを1回回転させると、お経を一回読んだのと同じご利益がある）などを見学した後、黒田家の墓を見ました。参加者からは「大きな立派な墓だな」との感想が聞かれました。



5回目の「肥前路古墳巡り」では佐賀県内の10基の古墳をバスで巡り、古墳時代の人々の暮らしぶりや

お祭りの様子などを想像しました。実際に古墳に登ったり、中に入ったりして、現在でも壊されることなく残っていることに感動しました。



6回目の「日本の陶磁—匠の技と心」では、前半は日本芸術院会員や人間国宝をはじめとする陶芸作家の作陶風景の映画鑑賞をした後、佐賀県陶芸協会展の作品解説を行いました。参加者はすばらしい作品に見入っていました。



7回目の「シチメンソウと有明海の生物」では、東与賀のシチメンソウ自生地に行き、実際にきれいに色づいたシチメンソウを見て、食べて、シチメンソウが葉に塩分をたくさん含んだ塩生植物であることを確認しました。有明海の生物についても観察しました。



8回目の「肥前の肖像画」では、スライドで肖像画が描かれた背景などについて解説した後、館蔵資料5点の肖像画を実際に鑑賞しました。参加者は間近に見ることのできない作品を熱心に見ておられました。



9回目の「日韓古代文化交流「吉野ヶ里遺跡と古代韓半島」を読み解く」では、吉野ヶ里遺跡と韓国から出土した土器や鏡、管玉や木製品を比較しながら、日本と韓国の文化の交流について解説を行いました。参加者は、日本で出土した木製の踏みすきと同じようなものが、韓国で出土した青銅器に描かれていることに驚かれていました。



10回目の「佐賀城公園の野鳥観察会」では、佐賀県立博物館のある佐賀城公園を散策し、野鳥の観察を行いました。ジョウビタキやメジロなどの小鳥の愛らしい姿やハシボソガラス、ハシブトガラス、ミヤマガラスの3種の違いを確認できました。

平成19年度は10回の博美セミナーを行いました。参加人数はのべ300名を越える多くの方に参加いただきました。皆さん熱心に話を聴いてくださいり、こちらも身が引き締まる思いがしました。また、参加された方同士で歓談される様子を見て、なおいっそこの博美セミナーを充実させたいという強い思いがしております。

(学芸課 矢川慎一郎)

## 博美こども広場（後期）実施報告

今年度から「博物館・美術館こども広場」の会員募集を前期・後期の2期に分けて行った。後期の申込みは、前期から引き続き参加を希望したメンバーを含め、18名の登録となった。

### 第1回（後期）

テーマ：「有明海の生き物たち」

実施日時：10月20日（土）10:00～15:00

参加者数：8名

有明海の生き物について学んだ後、有明海に入り「干潟」を体験した。



### 第2回（後期）

テーマ：「えびすさまを探せ」

実施日時：11月17日（土）10:00～12:00

参加者数：5名

佐賀市内に点在する「えびす像」を探し、像を観察した。



### 第3回（後期）

テーマ：「ピンホールカメラを作ろう」

実施日時：12月15日（土）9:30～12:30

参加者数：8名

空き缶や紙箱を利用した「ピンホールカメラ」作りに挑戦した。



（学芸課 藤田務）



## ホームページが新しくなりました。

平成20年1月、博物館・美術館のホームページをリニューアルしました。皆様により親しみやすく、見やすくなるように改訂しました。特に、開催中の展覧会情報や、講座・教室の案内ページなどを充実させております。附属設備使用料や施設使用申し込みの方法なども掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

佐賀県立博物館・美術館報 第140号

編集発行 佐賀県立博物館・美術館

〒840-0041 佐賀市城内1-15-23 〠0952-24-3947 〠0952-25-7006

ホームページアドレス [http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/kanko\\_bunka/k\\_shisetsu/hakubutsu/index.html](http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/kanko_bunka/k_shisetsu/hakubutsu/index.html)

E-mail [hakubutsukan-bijutsukan@pref.saga.lg.jp](mailto:hakubutsukan-bijutsukan@pref.saga.lg.jp)

印 刷 株式会社 三光

平成20年3月14日